

活動報告

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第 64 期生名簿 (2017 年 4 月～2017 年 9 月) [10 名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Khudhur Nawras Nazar	ナウラス	イラク	情報工学	広島大学
La Vanny	ラバニー	カンボジア	社会基盤環境工学	広島大学
Uddin Mohi	ウディン	バングラデシュ	医療薬剤学	広島大学
Rios Poveda Diana	ディアナ	スペイン	生物科学	広島大学
Nakayenga Joyce Justine Namutebi	ジョイス	ウガンダ	社会基盤環境工学	広島大学
Gwedela Mayeso Naomi Victoria	マイヨソ	マラウイ	神経生物学	広島大学
Sisabath Soubin	ソビン	ラオス	教育文化	広島大学
Knox Sally Renee	サリー	オーストラリア	教科教育学	広島大学
Nguyen Ngoc Thiet	ティエット	ベトナム	開発技術	広島大学
Truong Mai Van	バン	ベトナム	開発技術	広島大学

第 65 期生名簿 (2017 月 10 月～2018 年 3 月) [13 名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Than Aung	アウン	ミャンマー	英語教育	広島大学
Simumba Sydney	シドニー	マラウイ	教育行財政学	広島大学
Doraiswamy Karthikeyan	カーティク	インド	機械システム工学	広島大学
Murugan Sundaravel	スンダラベル	インド	機械システム工学	広島大学
Heryanto Arnold Giovanni	アーノルド	インドネシア	機械物理工学	広島大学
Porjit Teerakarn	ポージット	タイ	機械システム工学	広島大学
Le Anh Van	バン	ベトナム	土木工学	広島大学
Gusti Gillang Noor Nugrahaning	ギルラン	インドネシア	土木工学	広島大学
Muzhoffar Dimas Angga Fakhri	ディマス	インドネシア	輸送環境システム	広島大学
Hasan Mehedi	ハサン	バングラディシュ	歴史学	広島大学
Alam MD Jahangir	アラム	バングラディシュ	歴史学	広島大学
Rubel MD Salimul Karim	サリムル	バングラディシュ	再生医療	広島大学
Albitar Mohamad Ghaiath	ムハンマド	シリア	建築工学	広島大学

講師一覧

第64期（2017年4月～2017年9月）

専任 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 杉本雅恵

第65期（2017年10月～2018年3月）

専任 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 杉本雅恵

第64期（2017年4月～2017年9月）予定表

	行事／試験等	見学	備考
4/3- 4/7	4/4（火）11:00 オリエンテーション(K308) 4/5（水）13:30 開講式（学生会館レセプションホール）		
4/10- 4/14			
4/17 - 4/21			
4/24 - 4/28		4/28（金） 広島市	4/28（金） 17:15 ホストファミリー対面式 4/29（土）昭和の日（祝日）
5/1 - 5/5			5/3（水）憲法記念日（祝日） 5/4（木）みどりの日（祝日） 5/5（金）こどもの日（祝日）
5/8- 5/12			
5/15 - 5/19			
5/22 - 5/26		5/26（金） 宮島	
5/29 - 6/2			
6/5 - 6/9	6/8（木）中間テスト		
6/12- 6/16			
6/19 - 6/23			
6/26 - 6/30			
7/3- 7/7			
7/10 - 7/14			
7/17 - 7/21			7/17（月）海の日（祝日）
7/24 - 7/28		7/28（金） マツダ	
7/31 - 8/1	8/1（火）期末テスト		
8/2 - 9/1	夏休み		
9/4 - 9/8	9/4（月） - 9/7（木）特別講義 9/8（木）成果発表会、修了式		

第 65 期(2017 年 10 月～2018 年 3 月) 予定表

	行事／試験等	見学	備考
10/2 - 10/6	10/2 (火) 11:00 オリエンテーション(K308) 10/4 (水) 13:30 開講式 (学士会館レセプションホール)		10/6 (金) 16:30 全学新入留学生オリエンテーション (K108)
10/9 - 10/13			10/9 (月) 体育の日 (祝日)
10/16 - 10/20			
10/23 - 10/27		10/27 (金) 広島市	10/27 (金) 17:00 ホストファミリー対面式
10/30 - 11/3			11/3 (金) 文化の日 (祝日)
11/6 - 11/10			
11/13 - 11/17			
11/20 - 11/24		11/24 (金) 宮島	11/23 (水) 勤労感謝の日 (祝日)
11/27 - 12/1			
12/4 - 12/8	12/7 (木) 中間テスト		
12/11 - 12/15			
12/18 - 12/22			12/23 (土) 天皇誕生日 (祝日)
12/25 - 1/5	冬休み		
1/8 - 1/12			1/8 (月) 成人の日 (祝日)
1/15 - 1/19			
1/22 - 1/26		1/26 (金) マツダ	
1/29 - 2/2			
2/5 - 2/9			
2/12 - 2/16			2/12 (月) 建国記念の日 (祝日)
2/19 - 2/23	2/22 (木) 期末テスト 2/23 (金) 特別講義		
2/26 - 3/2	2/26 (月) - 3/1 (木) 特別講義 3/2 (金) 研修成果発表会・修了式		

日本語教育部門：日本語・日本事情
(2017年4月～2018年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	47	35
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	36	40
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	37	37
総合日本語初級ⅠD	1・1	2	2	44	33
総合日本語初級ⅠE	1・1	2	2		
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	23	13
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	30	12
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	26	13
総合日本語初級ⅡD	1・1	2	2	26	11
総合日本語中級ⅠA	1	2		23	
総合日本語中級ⅠB	1	2		20	
総合日本語中級ⅠC	1	2		22	
総合日本語中級ⅠD	1		2		29
総合日本語中級ⅠE	1		2		25
総合日本語中級ⅠF	1		2		28
総合日本語中級ⅡA	1	2		38	
総合日本語中級ⅡB	1	2		37	
総合日本語中級ⅡC	1	2		34	
総合日本語中級ⅡD	1				46

総合日本語中級ⅡE	1				44
総合日本語中級ⅡF	1				46
日本語聴解特別演習A	1	2		18	
日本語聴解特別演習B	1				38
日本語分析特別演習A	1	2		24	
日本語分析特別演習B	1				44
日本語表現特別演習A	1	2		21	
日本語表現特別演習B	1				35
日本語語彙特別演習A	1	2		23	
日本語語彙特別演習B	1				55
映像日本語特別演習A	1	2		11	
映像日本語特別演習B	1				29
日本語・日本文化特別研究ⅠA	4				3
日本語・日本文化特別研究ⅠB	4				3
日本語・日本文化特別研究ⅠC	4				
日本語・日本文化特別研究ⅡA	4	4		3	
日本語・日本文化特別研究ⅡB	4	4		3	
日本語・日本文化特別研究ⅡC	4	4		3	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	1	5
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	2	15
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	6	19

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教員	石原淳也・深見兼孝・浮田三郎・山中康子・渡辺久美・尾形典子・坂田光美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
担当教員	田村 泰男・中川 正弘・堀田 泰司・下村 真理子・山中 康子・杉本 雅恵
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： 音楽の音と効果、いい数字・悪い数字、「おもしろい」日本、くしゃみ、わたしの町、この日に食べなきゃ意味がない！、お相撲さんの世界、第一印象
テキスト	「中級を学ぼう -日本語の文型と表現56」 (スリーエネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教員	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価	出席状況と試験および宿題による評価。

日本語教育部門：留学生関係科目
(2017年4月～2018年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
Elementary Japanese I A	2		2		6
Elementary Japanese I B	2		2		5
Elementary Japanese I C	2		2		6
Elementary Japanese I D	2		2		4
Elementary Japanese I E	2		2		
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	5	3
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	5	3
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	5	3
Intermediate Japanese I A	2		2		13
Intermediate Japanese I B	2		2		14
Intermediate Japanese I C	2		2		12
Intermediate Japanese I D	2	2		9	
Intermediate Japanese I E	2	2		9	
Intermediate Japanese I F	2	2		7	
Intermediate Japanese II A	2		2		53
Intermediate Japanese II B	2		2		57
Intermediate Japanese II C	2		2		33
Intermediate Japanese II D	2	2		19	
Intermediate Japanese II E	2	2		19	
Intermediate Japanese II F	2	2		12	

Advanced Japanese A (Listening)	2	2		14	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2		49
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		20	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2		27
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		18	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2		53
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		25	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2		47
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		9	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2		28

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C・I D
担当教員	石原 淳也・坂田 光美・渡辺 久美・尾形 典子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教員	恒松 直美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞/他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級 II 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教員	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、 弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、 上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、 アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教員	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか、缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価	出席と試験および宿題による評価。

・ レベル 4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教員	田村 泰男・迫田 久美子
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしな、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教員	坂田 光美・尾形 典子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」 (凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教員	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き、～向け、～における、～上、～うえで、～なり、V たN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの</p>
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教員	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前にまず、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」 (凡人社)
成績評価	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内 容	第1回 導入。寝ているとき 第2回～第4回 昨日の私と今日の私 第5回～第6回 りんご 第7回 情報化社会 第8回 個性的であること 第9回～第10回 話せばわかる 第11回 伝統芸能 第12回～第14回 子育て 第15回 地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教員	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、VたN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜きの～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現82」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」 (凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの句型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習A
担当教員	深見 兼孝
目 標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内 容	第1回 導入。寝ているとき 第2回～第4回 昨日の私と今日の私 第5回～第6回 りんご 第7回 情報化社会 第8回 個性的であること 第9回～第10回 話せばわかる 第11回 伝統芸能 第12回～第14回 子育て 第15回 地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語聴解特別演習B
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語分析特別演習A
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習B
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語語彙特別演習A
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習B
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習A
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習B
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、 地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB
担当教員	山中 康子・渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	ガイダンス、ひらがな、毎日の挨拶、ひらかな練習、自己紹介、カタカナ、疑問表現、かな練習、提示の表現、目的語、日常活動の表現、時間表現、行動予定の表現、完了時制1)、移動の動詞、時の表現、勧誘の動詞、存在の動詞、位置の表現、目的の表現、授受の表現、形容詞、完了時制2)、希望の表現、好悪・程度の表現、比較・最上級、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅠ」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA
担当教員	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	ガイダンス、レベルチェック、初級1の復習、理由の表現、丁寧表現、助数詞、依頼表現、継起的動作、時間・期間の表現、進行中の動作、習慣・家族について話す、許可・禁止の表現、動詞の否定形、経験の表現、助言・提案の表現、スケジュールをメモする、動詞の辞書形、可能表現、趣味を語る、名詞句、意見を述べる、伝言を伝える、普通体の使い方、同時制の従属節、条件・譲歩の従属節、話し言葉の文体、状態の変化、お礼の手紙を書く、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅡ」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験

第 32 期 (2016 - 2017) 日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本国際センター（2010年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されており、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第 32 期は国際センター受け入れのインドネシア、セルビアからの学生それぞれ 1 名、部局間協定に基づく教育学部受け入れのニュージーランドからの学生が 1 名の計 3 名でプログラムを実施した。

<特別講義等>

2016年度(第32期)に実施した日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10月		
3日	プレイスメントテスト1	
5日	開講式	
7日	プレイスメント・テスト2 オリエンテーション	中川
14日	広島見学1(広島城・平和公園)	石原
21日	特別講義「音声学」	石原
28日	広島見学2(現代美術館ほか/ホストファミリー対面)	中川
11月		
4日	特別講義「日本語と文体 I」	中川
11日	特別講義「現代日本語の語彙 I」	田村
25日	宮島見学	石原
12月		
2日	特別講義「現代日本語の語彙 II」	田村
16日	特別講義「俳句入門」	浮田
1月		
6日	マツダ見学	石原
13日	特別講義「第二言語としての日本語の習得」	畑佐
20日	特別講義「グローバル社会における日本の大学と地域」	恒松
27日	特別講義「インド仏教と日本文化」	本田
3月		
29-30日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川
4月		
7日	プレイスメントテスト1	
14日	プレイスメントテスト2	
21日	研修レポート構想発表	石原
28日	特別講義「日本語と文体2」	中川
5月		
12日	サタケ見学	中川
19日	尾道見学	田村
26日	特別講義「日本語と方言 - 沖縄のことば -」	多和田

6月

2日	特別講義「比較言語文化論の視点」	浮田
4日(日)	ホームステイ協会交流会	中川
9日	呉見学：大和ミュージアム+倉橋島:長門の造船歴史館	中川
16日	特別講義「古事記と日本神話」	石原

7月

14日	研修レポート中間発表 1/2	石原
21-22日	松江・出雲見学旅行	石原

9月

8日	研修成果発表会、修了式	石原
----	-------------	----

第18期 平成29年度(2017年度) 日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度、20年度は5名、21年度2名、22年度5名、23年度5名、24年度は6名と、途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、25、26、27、28年度が7名、今年度29年度は6名を受け入れることとなった。今年度は全員が工学部への進学を予定しており、その内訳は、第一類への進学予定者が3名、第二類への進学予定者が2名、第3類への進学予定者が1名となっている。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より21年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、22年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されている。国際センター(旧留学生センター)からはセンター長のほか、石原准教授が委員・副部会長として部会に参加している。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート

7. その他謝金講師のサポート

8. 学生チューターの指導

等の業務を行っている。

【本学で実施する予備教育について】

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。また、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3, 4 を履修させていたが、半年後の 4 月からは日本人に交じって、日本語で全ての授業を受けねばならない状況を考慮し、22 年度からはレベル 4, 5 を履修させることとなった。しかしながら、レベル 4 で使用されている教科書が、韓国国内で行われている予備教育の前半課程において開講されている一部の日本語の授業で使われていることから、25 年度より、全学向けのレベル 4 の授業の代わりに、本予備教育生のためだけにレベル 4 相当の授業を二コマ 10 週にわたって開講することとなった。なお、従来より、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文、日韓文化論を各 1 コマ開設している。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学、物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。以前は、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、23 年度からは、広島大学マスターズという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになり、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとなっている。

また、英語に関しては外国語教育センターの全学向け「英語研修プログラム」から自分にあったものを選び、一コマ受講するようになっている。

なお、本年度における時間割、行事は次ページの通り。

時間割

	月	火	水	木	金
1					日本語会話 坂田
2		日本語中級 A 杉本	数学 今岡	日本語中級 B 尾形	日韓比較文化論 坂田
3	化学 谷本・平田	生物 渡辺、設楽、榊井	映像日本語 特別演習 B 石原		日本語作文 坂田
4	日本語聴解 特別演習 B 深見	物理 (後半 5 回) 松尾	物理 (前半 5 回) 渡邊	日本語分析 特別演習 B 中川	
5	英語 (1 コマ)				

行事

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	10/1-10/7	2(月)渡日 4(水)開講式 オリエンテーション 5(木)授業開始 6(金)プレイスメントテスト		
W1	10/8-10/14	9 体育の日		
W2	10/15-10/21		20 終日 広島見学	
W3	10/22-10/28			
W4	10/29-11/4	3 文化の日		
W5	11/5-11/11			
W6	11/12-11/18			
W7	11/19-11/25	23 勤労感謝の日		
W8	11/26-12/2		1 終日 宮島見学	
W9	12/3-12/9			
W10	12/10-12/16			
W11	12/17-12/23	23 天皇誕生日	22 マツダ見学	
W12	12/24-12/25			
		冬休み(12/26-1/5)		
W12	1/7-1/13	8 成人の日		
W13	1/14-1/20			
W14	1/21-1/27			
W15	1/28-2/3	専門科目終了		
W16	2/4-2/10			
W17	2/11-2/14	11 建国記念日		
W18		春休み(2/15-)		
	3 月中下旬	26 修了式		

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム活動報告

恒松直美・堀田泰司

沿革

1993年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange: 通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム(Hiroshima University Study Abroad Program、以下HUSAプログラム)は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学93大学及び2コンソーシアム(University Studies Abroad Consortium、USAC及びUniversity Mobility in Asia and the Pacific、UMAP、アジア太平洋大学交流機構)と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し、新しく学生主導型で進める「グローバル化支援インターンシップ」を開講し、地域と協力して地域社会がグローバル社会に対応するための地域活性化プロジェクトにも取り組むとともに、「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」にも挑戦するなど地域社会との連携を学生が自主的に取り組む挑戦も開始した。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムのINU(International Network of Universities)を活用し、アメリカ教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指しUMAP(University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うためUMAPが開発したUCTS(UMAP単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme)を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めて

いる。現在は、UMAP が新たに開発した USCO (UMAP Student Connection Online) 事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSA プログラム開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際センターの国際教育部門の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

1. 受け入れプログラムの概要

- ・ **受け入れ期間**：一学期または一学年
- ・ **募集人員**：約 100
- ・ **募集方法**：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ **応募資格**：
 - （1）本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - （2）学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - （3）非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ **選考方法**：短期留学交流会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- ・ **学生の身分と受け入れ方法**：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ **授業料等の不徴収**：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ **カリキュラム**：授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語による支援を行う授業、または日本人学生向けに易しい英語で授業を行うものであり、日本人学生と共に履修する。第 3 に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施してい

る日本語（初級・中級・上級）及び日事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2017-2018年度に開講された授業科目一覧表である。

2017-2018 度（2017 年 10 月～2018 年 8 月）授業科目一覧

2017 度秋学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
<3T> The Independent Study on Japanese Companies and Organization	1 単位	教育学部
<3T> The Independent Study on Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
<3T> The Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部
<3T> Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship I: Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship II: Practicum	2 単位	教育学部
<3T> Study on Japanese Companies and Organization	2 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyle B	2 単位	総合科学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Global Environmental Issues and Managements	2 単位	生物生産学部
Insect Science	2 単位	生物生産学部
Fish Production	2 単位	生物生産学部
Plankton Biology	2 単位	生物生産学部
Physiology of Field Crop Production	2 単位	生物生産学部
Animal Science and Technology	2 単位	生物生産学部
Molecular-Level Understanding of Functionality of Foods	2 単位	生物生産学部
Modern Food Science	2 単位	生物生産学部
English Phonology	2 単位	文学部
Seminar in English Debate	2 単位	総合科学部

Introduction to Phonetics and Phonology	2 単位	総合科学部
<3T>Earth Environmental Chemistry	2 単位	総合科学部
<3T>Hinduism and Buddhism in South Asia	2 単位	総合科学部
Topics in Algebra	2 単位	理学部
Geometry D	2 単位	理学部
Mathematical Analysis B	2 単位	理学部
English Seminar on Earth and Planetary Sciences	1 単位	理学部
Qualitative Research Methods	2 単位	教育学部
<4T>Criminal Justice in Japan	2 単位	法学部

2018 度春学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
<2T> Study on Japanese Companies & Organizations	2 単位	教育学部
<1T> The Independent Study on Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
<1T> Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Introduction to Advanced and Integrated Science	1 単位	理学部
<2T>Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
<2T> The Independent Study on Japanese Companies and Organizations	1 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Society and Gender Issues	1 単位	教育学部
Glocal Leadership Development: Practicum	1 単位	教育学部
<1T>The Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Theories of Second Language Acquisition	2 単位	総合科学部
Theories of Religious Studies□Comparative Religion	2 単位	総合科学部
Lecture on History of Indian Philosophy	2 単位	文学部
Seminar in History of Indian Philosophy A	2 単位	文学部

Seminar in Indian Philosophy A	2 単位	文学部
Introduction Seminar in Indian Philosophy and Buddhism A	2 単位	文学部
General Seminar in Indian Philosophy and Buddhism A	2 単位	文学部
Study of History of Buddhist Philosophy	2 単位	文学部
Lecture on History of Buddhist Philosophy A	2 単位	文学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Comparative and Contrastive Study of Language	2 単位	教育学部
Development and Education	2 単位	教育学部
Qualitative Research Methods	2 単位	教育学部
Seminar on Practical English	2 単位	理学部
General Biosphere Science(1)	2 単位	理学部
Practical work on writing reports and presentation (1)	2 単位	理学部
Legal System and Japanese Society	2 単位	法学部
Politics and Foreign Relations of Japan	2 単位	法学部
Special Subject IV (Business Economics)	2 単位	経済学部
Environmental Management Technology	2 単位	国際協力
Asian Cultures	2 単位	国際協力
<2T> INU Collaborated Special Lecture	2 単位	教養教育

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語中級 IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語中級 IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語中級 ID	2 単位	春学期	国際センター

日本語中級 IE	2単位	春学期	国際センター
日本語中級 IF	2単位	春学期	国際センター
日本語中級 IIA	2単位	秋学期	国際センター
日本語中級 IIB	2単位	秋学期	国際センター
日本語中級 IIC	2単位	秋学期	国際センター
日本語中級 IID	2単位	春学期	国際センター
日本語中級 IIE	2単位	春学期	国際センター
日本語中級 IIF	2単位	春学期	国際センター
日本語上級 A (リスニング)	2単位	春学期	国際センター
日本語上級 A (映画)	2単位	春学期	国際センター
日本語上級 A (語彙)	2単位	春学期	国際センター
日本語上級 A (表現)	2単位	春学期	国際センター
日本語上級 A (分析)	2単位	春学期	国際センター
日本語上級 B (リスニング)	2単位	秋学期	国際センター
日本語上級 B (映画)	2単位	秋学期	国際センター
日本語上級 B (語彙)	2単位	秋学期	国際センター
日本語上級 B (表現)	2単位	秋学期	国際センター
日本語上級 B (分析)	2単位	秋学期	国際センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎(日本人・留学生混在型)を用意する。(3) 学生サポーターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障(広島大学)とする。(5) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、UMAPの単位互換方式であるUCTSを導入し、単位互換を促進する。

II. 2017-2018年度HUSAプログラム留学生受け入れ状況

2017-2018年度は39名の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が1年間の滞在を希望しており、男女別で見ると2017-2018年度HUSAプログラムに参加した学生数は、男子学生21名、女子学生18名であった。

III. 2017-2018年度HUSAプログラム受け入れに関する業務及び活動内容

◆ 申請と選考

2017年度募集要項は、2017年1月に各協定大学へ配布され、3月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4月に本学の選考委員会によってHUSAプログラム参加者が正式に決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、本年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

◆ 渡日前の情報の提供

渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂して各学生にメール添付で送付した。また、ホームページでHUSAプログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し、留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には、電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

◆ サポーターオリエンテーション

学生サポーターに対し、今年度も事前に2回の説明会を行った。第1回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第2回目は、留学生が来日する直前に、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

◆ 見学・体験学習

2017年2月には、「グローバル化支援インターンシップ」を受講する留学生インターンが担当教員の指導のもと呉市倉橋町で開催される「倉橋フェスティバル」に参加し、地域行政の協力を得て国際交流企画に挑戦した。訪問者12,000人と言われる商業祭において地域住民と留学生の交流の場を留学生の企画により実現する貴重な国際的体験学習の場となった。2017年度秋学期も、例年のように10月に呉市吉浦秋大祭見学ツアーを行い、日本文化の体験学習の機会を提供した。日本の地域に伝わる祭りの歴史と地域社会のしくみについて学ぶとともに来日直後の留学生間及び地域の人々との国際交流の場ともなっている。

◆ 授業科目の開設状況

短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語科目が短期交換留学生のために開講された。日本語科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

◆ 「グローバル化支援インターンシップ」

2003年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年インターンとして地域企業に2週間派遣してきた。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010年度後期からは社会体験者講話に基づいたPBL(課題発見解決型学習法)による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築してきた。

2012年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップⅠ: キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ: 実習」と題して新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の持つ日本文化の観念的知識を地域と協働して地域社会で実践知として生かす国際的体験学習の場を構築している。留学生がリーダーシップを発揮しつつ自らマネジメントを行うプロジェクトは留学生に多角的な学びをもたらしている。

◆ 多国籍留学生による地域と協働する実践研究グループ・プロジェクト

2015-2016年度はHUSAプログラム留学生の多国籍チーム(7グループを構成)による「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」に各グループでテーマを決めて取り組んだ。2016-2017年度は、留学生が地域と協働で自助支援プロジェクト、2017-2018年度は自助支援プロジェクトの一環として「ホームシック対策」に取り組んだ。学内関係者及び地域関係者、学校関係者を招聘し、企画会議・中間発表会・最終発表会を開催してプロジェクトの成功に向けて地域協働で議論し、改善のための施策について検討する場を持った。「広島大学紹介ビデオ撮影に挑む1」、「HUSA留学生おすすめリスト」、「留学準備・到着後ガイドブック」など留学生の視点から自助支援のプロジェクトに取り組んだ。地域公開セミナーでは、「カルチャーショックとは」、「留学からの帰国準備: 逆カルチャーショック」(恒松担当)などの異文化適応のための講義も行った。

◆ 文化交流支援活動

9月に来日した直後に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは 2006 年度より 2 日間に渡って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や日本文化理解のためのグループ・ワーク、クラブ紹介、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学の学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。

国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、交流を促進した。また、サポーターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生を採用し、充実した支援の提供に努めている。

◆ 地域貢献

2003 年から 2006 年度まで、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話の依頼があり、フランス・韓国(2003)、アメリカ・カナダ・ギリシャ(2004)、ドイツ(2005)、タイ(2006)からの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話す体験を持った。担当教員も、2011 年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。2011 年度より「グローバル化支援インターンシップ」により地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献する留学生の国際的体験学習を企画してきた。地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画してきている。これらの体験学習により日本の地域社会と連携する力もつけつつある。広島県立日彰館高等学校による「日彰館高校グローバル人材育成プログラム」では、HUSA プログラム留学生が 2014 年度より「おもてなしホームステイ」に参加し、おもてなしプラン「国際交流行事全大会」（恒松担当）では、2015 年度より高校生・教職員・留学生の全員が参加する異文化インタラクションの場を構築している。

◆ HUSA 広報活動

HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。2014 年 5 月には HUSA フェイスブックを立ち上げ最新のニュース提供を行っている。また担当教員の研究ホームページにおいて HUSA プログラムの授業や国際教育・異文化間教育等の分野に関する研究の紹介をしている。

◆ HUSA プログラム評価

プログラムの改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布、回収し、結果をまとめ、プログラムの改善に役立てている。アンケート調査結果は短期留学交流部会において報告し、改善のための示唆を得ている。

IV. 2017-2018 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2017 年 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、中旬には短期留学交流部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、8 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2018 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考の概要である。

1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、2018 年 3 月現在アメリカ、カナダ、ブラジル、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、インド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、モンゴル、中国、香港、台湾、韓国、トルコ、イギリス、オーストリア、オランダ、スウェーデン、スペイン、セルビア、ドイツ、フィンランド、フランス、ポーランド、リトアニア、ロシアにある 93 の協定大学から交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、スタリカ、イタリア、チリ等へも派遣している。さらに非営利団体である「あしなが育英会」とも協定を締結し、留学生を受け入れてきている。

2. 特徴：

- ・ **授業料不徴収：** 本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- ・ **奨学金：** 日本学生支援機構による海外留学支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- ・ **単位互換制度：** 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することに

より、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。

- ・ **現地コーディネーターのアシスタント**：協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流**：留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年11月末頃までに提出する。

5. 面接（口述）試験

(ア) 学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年1月の第1週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流部会の委員による1グループ2～3名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ5段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の1つの評価指標としている。

6. 選考委員会の実施

(イ) 例年1月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の語学能力、面接試験結果、学業成績、留学志望校を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し、選考及び推薦を行っている。

V. 2017-2018 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2017 年度の短期交換留学生派遣に関しては、28 名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス、ポーランド、オーストラリア、ニュージーランド、中国、シンガポールにある 15 の協定大学及びコンソーシアム・プログラムの USAC を通じてアメリカ、チリの 2 大学へ派遣した。派遣国は、欧米だけでなく、アジア諸国への派遣も拡大しているが、全協定大学との交流バランスでは受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また、本学では、協定大学が開講する超短期（1 学期未満）プログラムへの留学も選考、派遣しており、2017 年度は、7 大学（韓国 2 校、ロシア 2 校、台湾 2 校、香港 1 校）へ合計 24 名を派遣した。派遣規模は、年々拡大しており、受入れ超過傾向にある協定大学への通常の 1 学期または 1 年間の派遣を含め、今後も継続して派遣を拡大していく計画である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：2017 年度は、毎年 5-6 月に実施する留学ウィーク並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び学生アシスタントによる留学相談デスクを設置した。その結果、協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は、いつでも情報収集し、留学相談できるようになった。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度（4 月と 7 月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を 6 月の第 2 回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：2017 年度も、派遣留学を促進するため、すでに 2006 年より開講してきた INU 特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されている INU 特別協力講義は、INU ネットワークを利用し、アメリカの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの 1 科目（特別講義と集中講義合わせて 1 セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。

2013年5月には、本学の担当教員が、UMAPがこれまで活用してきたUCTS（UMAP単位互換制度）について、新たな概念（Asian Academic Credits、以下AACs）の導入を提案し、国際理事会にて、承認された。

AACsの概念とは、以下の通りである。

1 UCTS=38~48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13~16 時間の授業時間数(academic hour)が含まれる。

AACsを新たなUCTSの基本理念として導入することにより、UMAP参加大学の多くの間では、1単位の価値は等価と見なすことができ、単位互換が簡素化され、学生交流の促進が期待できる。また、アジア共通の単位互換制度を構築した場合、欧米諸国との単位互換も簡素化され、アジアと他地域の学生交流促進にも貢献することができる。ただし、新たな概念は科目間の内容の互換性を保証する手法が含まれていないので、今後、さらなる開発が必要である。現在、同様の単位互換の概念は、アセアン諸国等の他の学生交流事業においても、導入が検討されている。特に、ASEAN+3の13か国政府間で、現在、AACsの概念を活用したアジア地域の成績証明・単位互換の枠組の構築が、2016年より検討されており、2018年には、教育大臣会議で基本合意される可能性がある。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2017年

- 5月 *広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員会出席
(恒松)
- 6月 *James Madison University, Head of Dormitory が広島大学を訪問 (INU)
- 8月 *広島県立日彰館高等学校訪問「日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 吉舎おもてなしプラン国際交流行事」会議 (恒松)
- 8月 *University of Jyväskylä (フィンランド)国際オフィス表敬訪問 (恒松)
*The 30th Annual Consortium of Higher Education Researchers (CHER) Conference,
University of Jyväskylä, Finland 参加 (恒松)

- 9月 *Pacific Circle Consortium (PCC) 41th Annual Conference 参加 (広島JMSアステールプラザ)
(恒松)
- 10月 *University of New South Wales (UNSW) (オーストラリア) 国際オフィスより表敬訪問
- 11月 *「地域と協働で創る多文化共生社会」公開国際セミナー開催 (「グローバル化支援インターンシップ」) (広島大学国際センター) (恒松)
- *広島県立日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 - 吉舎おもてなしプラン
「広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会」企画・司会 (恒松)
- *Cardiff University (イギリス) 日本語コースより表敬訪問

2018年

- 1月 *広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学英語表現」英語合宿における
「異文化理解セミナー」講師 (恒松)
- 1月 *Cardinal Herrera University (CEU) (スペイン)国際オフィスより表敬訪問
- 2月 *呉市倉橋町「倉橋フェスティバル」における「グローバル化支援インターンシップ」実習
(恒松)

特別研修プログラム

本田義央
小宮山道夫

1. 日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（アジア非漢字圏）

本プログラムは、中華人民共和国及び台湾の大学で日本について学んでいる学生を2週間本学に受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台の交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として2010年度夏から実施してきたものである。

今年度は、夏期に、中華人民共和国、台湾を実施し、冬期には、前年度と同じく、中華人民共和国、台湾、アジア非漢字圏からのプログラムを実施し、通年で5つのプログラムとなった。

夏期（台湾）	7月3日～7月18日	24名
（中国）	7月19日～8月4日	40名
冬期（台湾）	1月20日～2月3日	22名
（中国）	1月31日～2月14日	67名
（アジア非漢字圏）	2月20日～3月7日	6名

2. 日本語・日本文化特別研修（長春大学特別支援）

本プログラムは、日中の相互理解を促進する人材育成の一環として、身体等の障害により特別の支援を必要とする学生を受け入れるもので、特別支援教育に関する初めてのプログラムとして提供したものである。今年度は長春大学特殊教育学院からの要請に基づき、本学で特別支援教育を担う大学院教育学研究科特別支援教育学講座・附属特別支援教育実践センターと共同し、身体等に障害のある学生の修学支援を行っているアクセシビリティセンターの協力を得て実施し、聴覚障害者8名と引率教員2名を受け入れることができた。

通常の日語・日本文化特別研修と同様に日本文化体験や本学学生との交流を深めることに加え、本プログラム独自の特色として日本語手話の体験や、広島市内の特別支援学校や県内企業への訪問を盛り込んだ。企業訪問では障害者が働く現場を視察し、意見交換を行う機会を設けたことで好評を得た。

この成果により長春大学特殊教育学院と本学との連携を確かなものとする事で合意形

成し、2018年度以降も春期・秋期の年に2回の特別支援研修の実施を継続する予定である。

長春大学特別支援（秋期） 10月4日～11日 8名

3. 日本語・日本文化特別研修<受注提供型>（山西師範大学）

本プログラムは、従来の日本語・日本文化特別研修をベースに個別教育機関の要求に応じて日程や内容をカスタマイズして提供する特別研修である。日本語・日本文化特別研修と同様に講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、国際交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として、新たに2017年の秋期から開始したものである。

今年度は中華人民共和国の山西師範大学から申し入れがあり、来日・出国をあわせて11日間の日程で研修内容を組んで実施した。このように研修内容を柔軟にデザインすることで個別教育機関の要求を可能な限り受けとめる受注提供型の研修を今後も提供していく予定である。

受注提供型（山西師範大学） 11月14日～24日 26名

4. 中国語・中国文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（中国）との双方向性をもつ派遣プログラムとして実施してきたもので、今年度は9月3日から9月23日の日程で17名の研修生を北京の首都師範大学に派遣することができた。

5. 華語・台湾文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として実施してきたもので、今年度は、3月15日から3月29日の日程で、台北市の輔仁大学に13名の研修生を派遣した。

6. 立命館大学連携広島特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（中国・台湾）における京都特別研修の双方向性をもつ受け入れ研修として2016年度より実施してきたもので、立命館大学にて研修中の留学生に対して教育プログラムを提供するものである。今年度は、6月23日から6月24日の日程で来広した米国ラトガース大学の学生8名、同じく7月24日の日帰り日程で来広した Ritsumeikan Summer Japanese Program 2 (RSJP2) に参加中の留学生

19名に対し、広島市内での平和学習を提供した。

広島特別研修（ラトガース大学）	6月23日～24日	8名
（RSJP2）	7月24日	19名
（内訳：米国15名、中国3名、露国1名）		

ダルマ・プルサダ大学（インドネシア）における日本語教員研修

山中康子

はじめに

本稿は、広島大学と国際交流協定のあるダルマ・プルサダ大学にて2018年3月に行った日本語教員研修の報告である。

本教員研修は、平成29年度国際交流基金ジャカルタ日本文化センター日本語事業部さくらネットワーク助成を受けて、ダルマ・プルサダ大学が行ったものである。この助成対象事業概要は「広島大学を中心とした日本語作業部会（他に東海、東洋大学）が中心となって改訂したカリキュラム改革に伴って、高度な知識を学生に教授するための常勤講師の日本語能力、及び指導技術の向上」である。また、今回の直接の助成対象は「日本語講師のためのN2取得セミナー、教える技術（カードやスライド等のものを使って教える方法）の指導」となっている。筆者は本研修の主要協力者として招かれ、上述の技術指導担当者およびセミナー講師を務めた。

研修の概要

期間 2018年3月5日～23日

実施日程は下の通り

日付		研修内容
3月5日	月	授業見学
3月6日	火	N2取得のための勉強会(午前)・授業見学(午後)
3月7日	水	授業見学
3月8日	木	授業見学
3月9日	金	授業見学(午前)・学内ミニセミナー(午後)
3月12日	月	模擬授業「読解VI」・「日本語応用練習」
3月13日	火	N2取得のための勉強会(午前)・模擬授業「演習1」
3月14日	水	模擬授業「聴解2」
3月15日	木	模擬授業「表現」・「日本語基礎練習2」
3月16日	金	「最近の日本語教授法」公開セミナー
3月19日	月	授業見学
3月20日	火	N2取得のための勉強会(午前)・授業見学(午後)
3月21日	水	授業見学

3月22日	木	授業見学
3月23日	金	授業見学(午前)・反省会(午後)

参加者

基本的には、ダルマ・プルサダ大学日本語文学部常勤講師であるが、一部、同大学の非常勤講師も加わり、勉強会・ミニセミナーへは毎回約20名の参加があった。公開セミナーには、近隣の大学講師・高等学校教師も加わり、100名ほどが参加した。

内容

大きく以下の1) 2) を扱った。また、公開セミナーとして3月16日午後「最近の日本語教授法―現場の日本語教師の所感―」と題する講演を行った。

1) 日本語講師のためのN2取得のための勉強会 (期間内の毎週火曜日 10:00~11:40)

主教材：『新しい「日本語能力試験」ガイドブック』(凡人社)・日本語能力試験公式HP

1回目 (3月6日) 試験の概要確認・力試しとしてN3問題演習

- 1) N3問題を解く
- 2) 自己採点后、グループで学生への指導法を考える
- 3) グループ活動のシェア、講師からのコメント・アドバイス

2回目 (3月13日) N2問題演習 (1回目と同じ手順)

3回目 (3月20日) N2問題演習 (2回目の続き)

2) 教える技術の指導

概説、個別指導および模擬授業 (これは、今回の研修での呼び方であり、いわゆる「モデル授業」のことである。本稿では以下「モデル授業」と称する) を行った。

概説1 : 3月9日午後 ミニセミナー「初級・中級の読解・聴解教授法」

事前にアンケートを取っていたものをもとにしたミニセミナーで、初級および中級の聴解・読解の授業の基本的な考え方・進め方などを、演習を交えて講義した。また、授業準備・自己の日本語力向上に役立つ図書を紹介した。

参考資料 : 国際交流基金日本語教授法シリーズ『聞くことを教える』・『読むことを教える』

教材紹介 : 「小丸文庫」福山通運からダルマ・プルサダ大学に寄贈 (148冊)

今回の研修用に広島大学から寄贈 (17冊)

概説2：上記1)内、2回目・3回目の後半

2回目：授業準備の助けになる補助教材・サイトを知る

3回目：学習の助けになる教材・サイトを知る

個別指導・モデル授業

1週目（3月5～9日）：見学

1日あたり約6クラス（1クラスあたり約20～30分）ノートしながら見学し、それを元に残りの時間でよい点・改善希望点を書いたメモを作成した。授業後、授業見学ノート・メモを見ながら、担当教員と面談（1人10分程度）を行った。その際メモを手渡した。

2週目（3月12～16日）：モデル授業

ダルマ・プルサダ大学の授業科目に合わせて、特に教員側から希望のあったクラスの授業1コマ（100分）を山中が代わりにモデル授業として担当し、授業の空いている教員が見学した。

担当授業名：「日本語基礎練習2」「日本語応用練習2」「表現」「聴解2」「読解VI」
「演習I」

3週目（19～23日）：見学

基本的に指摘した点の改善の有無を中心に1週目と同じ手順で、同じクラスを再度見学し、改めて個別のフィードバックを行った。

所感・今後への提言

今回の研修に関して講師側から事後アンケートを取るなど客観的資料を集めていないため、講師を務めた筆者のあくまで個人的な所感をまとめ、今後への提言を行いたい。

一週目の授業見学から見えた問題点は、大きく3つある。1) 教員側の日本語力に問題が見られるもの、2) 基本的な語学の授業の流れがはっきりしないもの（教授法の理解不足）、3) 教室活動を行う技術が足りないもの、である。まさにこの不足の自覚から、今回の教員研修が企画されたものと理解している。

この問題点解消のため、今回の研修では1)については、勉強会を設けた。個別指導時に、語学力に不安を持つ者は、主任教員を同伴しての面談を行った。2) 3) について、初級・中級の読解・聴解の教授法のミニセミナーを持った。また、個別面談でアドバイスをを行った。2週目にモデル授業を行い、実演して見せた。3)に関しては、教室の机の配置に始まって、教員の立ち位置、教室での声の大きさ・変化の付け方、指名方法、板書法、

ドリルのいろいろ、ペアワーク・グループ活動の持ち方など、必要に応じて面談時にアドバイスした。2週目のモデル授業では、できる限りわかりやすく、実演に努めた。

以下に気づきを詳述し、今後への提言を述べる。

・個別指導（授業見学・面談・モデル授業）について

ダルマ・プルサダ大学は3月5日から後期が始まったばかりで、各クラスは後期第1回目であった。そのため、どうしても授業前半は通常の授業とはならず、中には、学期当初の混乱（教室のダブルブッキング・受講科目を間違えている学生など）も見られたため、各時間の後半あたりに少しずつ見学した。

個別指導に関しては、面識もなく、また名も知られていない一教師にすぎない筆者が、すでに指導経験を積んでいる教員らに、いきなり「指導」と言っても、心理的な「壁」があることを感じた。そこで、一週目はまず教員方との人間関係作りに重きを置いて、面談に臨んだ。具体的には、まず同じ「教師」として「学生の指導への苦勞に対する共感」を示すこと、また、見学した授業を褒めることをベースとし、その後、授業改善へのヒントをいくつか提示する形にした。インドネシアでは特に他人の面前で叱られる、アドバイスを受けるなどの行為は著しく相手のプライドを傷つけ、受け入れられにくいと聞いていたので、面談に当たっては準備のあった個室を用いた。これはおおむね好意的に受け入れられたと思われる。また、上下関係を重く受け取る国民性があるとも聞いていたが、実際、指導歴の長い教員の中には、筆者の指導歴のほうが長いとわかると、やっと授業における悩みを打ち明け始めたケースもあった。

2週目のモデル授業時には、次のようなことを感じた。まず、学生はおおむね日本語学習に積極的であるが、クラスの学生の日本語力にはかなりの開きがあり、ふだんのクラス運営は容易でないことが想像できた。実際、日本語能力試験N2にすでに合格したという2年生もいた。対して、授業担当教員の中にはそのレベルに達していない者もある。しかし、このような日本語力が突出した学生の絶対数は多いわけではなく、習熟度別クラスを設けるほどではないのが、難しいところである。教員側も今後とも勉強会を続けて、自己の日本語力研鑽に努めるとともに、能力差のあるクラスでの指導技術も磨いていくことを求めたい。次に、具体的な教室活動の「こつ」は少し大げさに実演してみせることで示したが、見学の教員はしっかりメモを取っており、授業後や空き時間に筆者に質問するなどしていたので、意図は伝わったものと思っている。

3週目の再度の授業見学時には、授業の流れに意識が働き、学生にとってその日の目標がはっきりしたわかりやすい授業が増えていた。また、個別のアドバイスが生かされている場面も多く見られた。特に若い教員の中には、他の研修等で身につけた教室活動を積極

的に取り入れて、教員も学生も楽しんで日本語を学習している様子もあった。わずか2週間のうちのかぎられた時間のセミナー・個別面談のみで、これらが身につくとは思えない。つまり、今回の教員研修が、既知のものを授業に積極的に取り入れる契機になったものと思われる。

・勉強会について

常勤講師の授業時間、また付属日本語研修コースの授業担当、一部の教員自身が受けている大学院での授業などがあり、なかなか全員が顔を合わせる機会がないと聞いた。火曜午前は、皆が集まるための時間とされており、比較的集まりやすいとはいえ、毎回の出席には、異同が見られた。

今回は現地に到着後、教員側のニーズを聞き、急遽準備したため、教員側の事前準備がない状態で、N3・N2 レベルの問題例集をもとに演習形式で進めた。そのため、当初大学側から求められていた教員側の主体的な勉強会というより、研修会講師主導になってしまったことを反省している。また、日本語力の高い教員からは指導法の工夫について発言があったものの、全般的に日本語そのものに関する質問が多かった。このようにまずは全般的な日本語力の底上げが必要な中で、今後どのような研修が効果的か、継続して考えていきたい。

・ミニセミナー（学内）について

現地到着後のアンケートで要望があり、また、一週目の授業見学の中から筆者が必要を感じた内容をセミナーの内容として取り上げた。どれか一つの教授法ではなく、あくまで現場経験から感じた「学生主体」の授業の持ち方を、演習形式を交えて示した。勉強会に対する反省と重なるが、日本語力に不安を持つ教員のためにはもう少し早めに資料を配付し、事前に準備する時間が必要であった。ただ、「現場の教師」同士という同じ「土俵」で、具体的な教材を用いた演習形式は、普段感じている疑問を口にしやすいと思われる。

(資料1の写真1参照)

同時に、今回のために広島大学から寄贈された教材の紹介もここで行った。(資料2参照) ダルマ・プルサダ大学には、すでに福山通運から送られた書籍が「小丸文庫」と名付けられ、教員・学生ともに活用できるよう、学科の図書室に備えられている。今回の資料も追加で置いて活用してもらったことになった。

補足しておく、広島大学インキュベーション研究拠点「教育ヴィジョン研究センター (EVRI)」による海外研究交流拠点 (HUGLI: Hiroshima University Global Learning Institute) の開発と活性化に努める活動の一環で、永田良太教授 (日本語教育学講座) が今年度2度に分けて、日本語教授法の講義を行う旨を聞いている。(その1回目は6月25

日～29日にすでに行われた。参照<<http://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/news/46278>>) 系統立てた内容はこちらで扱われるものと考えている。

・公開セミナーについて

国際交流基金の助成を受けているため、義務づけられている公開セミナーであった。これも現場の教師という立場から、日本語教師になるまでのいきさつ、ふだん感じている授業改善のための工夫について講演した。また、事前に集めた参加者からの質問に答えるコーナーも設けた。授業前チェック、授業後の自己評価を行う際の項目等の参考資料として大森雅美・鴻野豊子（2012）を用いた。参加者は近隣の大学講師、および高校教師であったが、大学と高校では、置かれている状況にも、公開セミナーに求める情報にも大きな違いがあると感じられた。時間が許すなら、それぞれに向けての別セミナーを行う、部を分けるなど、なんらかの工夫が必要であろう。（資料1の写真2～4参照）

以上、3週間の研修内容についての報告である。

このさくらネットワーク助成を受けての日本語教員研修は、平成30年度も申請が受け入れられ、継続できる見込みだとのことである。現在、ダルマ・プルサダ大学では、3月の研修を受けて各教員が自己点検を行っていると聞いている。次回の研修までにはまとめられるものと思われる。また、次回の研修会の内容として、ICTを活用した教材作成グループワークなどを一案として提案したいと考えている。

参考文献

- (1) 大森雅美・鴻野豊子（2012）『日本語教師の七つ道具シリーズ① 授業の作り方 Q&A78 編』アルク
- (2) 国際交流基金（2006）『国際交流基金日本語教授法シリーズ7 読むことを教える』ひつじ書房
- (3) 国際交流基金（2008）『国際交流基金日本語教授法シリーズ5 聞くことを教える』ひつじ書房
- (4) 国際交流基金・日本国際教育試験協会（2009）『新しい「日本語能力試験」ガイドブック 概要版と問題例集 N1、N2、N3 編』凡人社
- (5) 広島大学「【成果報告】ダルマプルサダ大学（インドネシア）の先生方へ日本語教授法の講義をしました」<<http://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/news/46278>>（2018年9月1日）

資料 1



写真 1 : 学内ミニセミナーの様子



写真 2 : 公開セミナーの様子その 1



写真 3 : 公開セミナーの様子その 2



写真 4 : 公開セミナーの様子その 3

資料 2 本

大森雅美・鈴木英子・中空芳江・福田規子 (2008) 『日本語を教えたい人のためのはじめての授業キット』アルク

国際交流基金 (2006) 『日本語教師必携 すぐに使える「レリア・生教材」アイデア帖』スリーエーネットワーク

国際交流基金 『国際交流基金日本語教授法シリーズ』全 14 巻 ひつじ書房

小山悟 (2015) 『イラスト満載! 日本語教師のための活動アイデアブック』スリーエーネットワーク

研究・その他の活動（2017年4月～2018年3月）

1. 研究論文・著書

Tsunematsu, Naomi (2018). Value of Experiential Learning for International Students in Study Abroad Programs in Japan: Intercultural Competence Outside the Western Paradigm. Bulletin of International Center of Hiroshima University [Hiroshima Daigaku Kokusai Sentâ Kiyô], 8, 1-15.

恒松直美 「多国籍留学生の国際的体験学習における日本の学校文化との接触 - 多文化共生の課題と教員の教育的介入 - 」 『広島大学留学生教育』 第21号, 2017年, pp.1-16.

Tsunematsu, Naomi (2016). Multinational Students' Cooperation and Agency: Theoretical Issues in International Students' Internship Working with the Local Society in Japan. International Students' Education of Hiroshima University [Hiroshima Daigaku Ryûgakusei Kyôiku], 20, 15-30.

Tsunematsu, Naomi (2018). " 'Multinational Students' Voices in International Experiential Learning: Standpoint of Culturally Diverse Teams inside Power Relations in Japanese Society" , CHER (Consortium of the Higher Education Researchers) 30th Annual Conference, Conference Paper

中川正弘 「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* — 日本語翻訳と抽象の変質 —」, 『広島大学フランス文学研究』 第36号, 2017年, pp. 22-43 (広島大学図書館リポジトリ登録公開版には補遺11頁付)

深見兼孝 「日本語の『ような』と韓国語の『kathun』による直喩の対照: 「ような」と『kathun』が翻訳に反映されない場合を中心に」 『総合学術学会誌』 第17, 2018年3月, pp.19-26.

松見法男・徐婕・徐暢・柳本大地 「日本語学習者は聴解においてどのような情報に注意を向けるか—聴解時の教示操作とテキスト読解時の視線分析を用いた実験的検討—」 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部(文化教育開発関連領域) 第66号, 2017年12月, pp.111-118 (査読なし)

松見法男・王校偉・ジャブルブル・柳本大地 「日本語学習者は読解においてどのよう

な情報に注意を向けるか—テキスト音読時の視線追跡による実験的検討—」
『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部(文化教育開発関連領域)』第 66 号,
2017 年 12 月, pp. 119-127 (査読なし)

Thomson, C. K. & Chan, S. (2017). 「実践コミュニティとしての大学院生の勉強会における参加の拡張」 In Thomson, C. K. (Eds.), 『学びの実践共同体』 ココ出版

2. 学会発表

Tsunematsu, Naomi, "Are International Students Culturally Deficit in Japanese Society?: Crossing Cultures Without the Professor's Intervention", 日本比較教育学会第 53 回大会, 東京大学, 2017 年 6 月 25 日

Tsunematsu, Naomi, "Self-evaluation of International Experiential Learning by Multinational Students: Cooperative Learning to Collaborate with Local Agencies in Japan", 留学生教育学会 第 22 回年次大会 (総会・研究大会), 東洋大学, 2016 年 8 月 19 日

Tsunematsu, Naomi, " 'Multinational Students' Voices in International Experiential Learning: Standpoint of Culturally Diverse Teams inside Power Relations in Japanese Society", CHER (Consortium of the Higher Education Researchers) 30th Annual Conference, University of Jyväskylä (Finland), 2017 年 8 月 29 日

Tsunematsu, Naomi, " 'Emic & Etic Views on 'Multinational Students' Experiential Learning in Japan: Divergent Interpretations in Different Standpoints", Pacific Circle Consortium 41st Annual Conference, 広島市国際青年会館, 2017 年 9 月 6 日

深見兼孝 「『ようだ』が韓国語訳に反映されない『N1 のような N2』」, 2017 年度日本総合学術学会春季大会, 広島大学 (千田キャンパス), 2017 年 6 月 10 日

深見兼孝 「対訳における部分的削除と添加をとおして見た日本語と韓国語の直喩」, 2017 年韓国日本語学会秋季大会, 白石芸術大学 (韓国) , 2017 年 9 月 23 日

柳本大地 「韓国語を母語とする日本語学習者の日本語漢字単語の聴覚的認知—プライミング法による意味一致判断課題を用いた実験的検討—」, 『2017 年度日本語教育学会春季大会』, 早稲田大学, 2017 年 5 月 20 日

柳本大地 「中級の韓国人日本語学習者における日本語漢字単語の聴覚的認知—韓日 2

言語間の形態異同性と音韻類似性を操作した実験的検討一」,『第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム』, 中国延辺大学, 2017年8月20日

王校偉・柳本大地・ジャブルブル・松見法男 「視線追跡による中国人上級日本語学習者の音読の認知過程に関する研究—読解前教示と作動記憶容量の観点から—」,『第22回留学生教育学会(JAISE)年次大会 第2部研究大会』, 日本電子専門学校, 2017年9月2日

徐婕・徐暢・柳本大地・松見法男 「日本語学習者は聴解においてどのような情報に注意を向けるか—聴解時の教示操作とテキスト呈示時の視線追跡による実験的検討—」, 第22回留学生教育学会(JAISE)年次大会 第2部研究大会, 日本電子専門学校, 2017年9月2日

韓曉・柳本大地 「シャドーイング時の音韻・意味処理に及ぼす作動記憶容量と材料要因の影響—2文シャドーイング課題を用いた実験的検討—」『2017年度日本語教育学会秋季大会』, 朱鷺メッセ(新潟県新潟市), 2017年11月26日

柳本大地・徐暢 「中国人上級日本語学習者における日本語文の聴覚的認知—文の構造と作動記憶容量を操作した実験的検討—」,『第28回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会』, お茶の水女子大学, 2017年12月17日

Chan, S. (2017). A Study of the misuse of the Japanese Noun modifier no by second language learners of Japanese: The Examination of the Effect of Chunking. Panel Title: I-JAS (International Corpus of Japanese as a Second Language) and three studies of its data. Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia, Wollongong, Australia.

3. 学術研究補助金

恒松直美 科学研究費補助金(C)「日本留学での適応と帰国後の再適応が多国籍留学生に与える影響のホリスティックな研究」(2017-2020)

4. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学「グローバルインターンシッププログラム」(G.ecbo) 運営委員

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール研究協力委員
恒松直美 教育開発国際協力研究センター(CICE)学内容員研究員
永井敦 広島大学 PEACE 学生交流プログラム, シンポジウムの運営
永井敦 広島大学平和企画, 被爆者と留学生の国際交流のコーディネーター

B. 学会活動

恒松直美 日本総合学会 監事
中川正弘 日本フランス文学フランス語学会 中国・四国支部実行委員
中川正弘 広島大学フランス文学研究会 参与
深見兼孝 西日本言語学会 運営委員
深見兼孝 日本総合学会 副会長
深見兼孝 韓国日本語学会 一般理事
深見兼孝 韓国学研究会 会長
チャン・サリー 豪州日本研究教育学会 運営委員会大学院生代表

C. 講演・ワークショップ等

恒松直美 “Hint: Tips for Your Success,” 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」第2回中間発表会, 2017年4月20日

恒松直美 広島大学公開講座「グローバル社会・大学・地域を結ぶ ～異文化との接触に備えて～」(“Global Society・University・Local Society ~Preparing Yourself for Intercultural Contact”), 2017年5月18日, 5月25日, 6月1日

恒松直美 “What is Intercultural Adjustment?” 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」最終発表会, 2017年7月12日

恒松直美 「日本文化理解グループ・ワーク」広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)オリエンテーション, 2017年9月28日

恒松直美 「吉舎おもてなしプラン」国際交流行事企画運営 広島県立日彰館高等学校 グローカル人材育成プログラム120 (日彰館高校と広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会), 2017年11月11日

恒松直美 “Meaning of Experiential Learning and Cooperative Learning,” 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA) 「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」 プロジェクト企画発表会, 2017年11月29日

恒松直美 “Success Tips: Connecting with People,” 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA) 「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」 第1回中間発表会, 2018年1月24日

恒松直美 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学表現」英語合宿における指導, 2018年1月27日, 広島大学学生プラザ

永井敦 「Global Englishes」(岡山県立岡山大安寺中等教育学校「分野別学習」(言語学・文学分野)における講演), 岡山県立岡山大安寺中等教育学校, 2018年2月15日

チャン・サリー 豪州シドニー・ニューサウスウェルズ大学とシドニー国際交流基金開催 日本語・日本教育大学院生ワークショップ 運営担当, 2017年10月31日